

…建物レスキューASPサービスの導入方法…

建物レスキューASPサービスとは、

お客様側でデータベースサーバーを構築せず、ASPサービス提供者であるFMシステムにてサーバーを提供するタイプの利用形態です。

お客様のメリットとしては、以下があります。

- ・利用料を月額支払となるため、イニシャルコストを抑えることができます。
- ・サーバーの構築や運用管理の手間がかかりません。
- ・サーバーのバックアップや点検はASPサービス提供者側が行います。

1. ASPサービスの利用手順

①FMシステムに建物レスキューASPサービスの申込みを行う

当社指定の申込書に必要事項を記載し、ご送付いただきます。

②VPN(NTT コミュニケーションズ「GroupVPN サービス」)の工事を行う

お客様の社内ネットワーク環境に新たに、B フレッツ回線を導入し、VPN 専用ルーターを追加します。当社にて VPN の工事手配を行います。

③ファイルサーバーを設定する

建物レスキューを利用するためには、クライアントPCからアクセス可能な共有のファイルサーバーが必要となります。

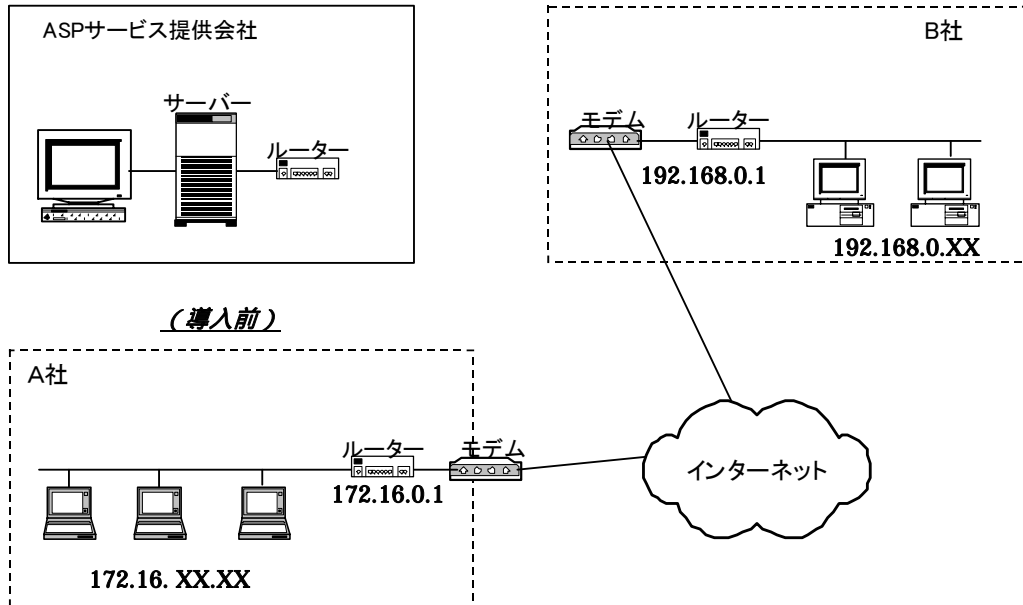
共有するファイルは、帳票テンプレート、通話音声、まいく郎用ファイル、などです。

④クライアントPCに利用したいアプリケーションをインストールする

インストールCDより利用したいアプリケーションをインストールします。

接続確認は「3. クライアントPCの設定方法」をご参照ください。

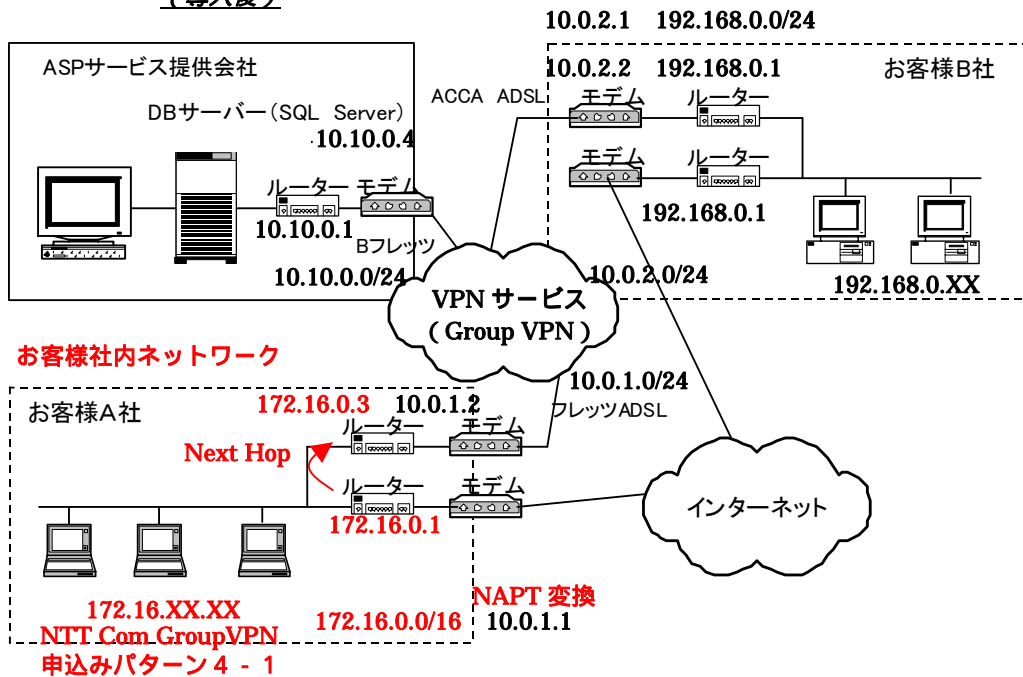
2. 導入イメージ



ASPサービスを利用するために必要なこと

- ・ VPN サービス (NTTコミュニケーションズ Group VPN) への加入
- ・ Next Hop させるルータの設定 (VPN サービス申込み時に登録)
- ・ 建物レスキューを利用するクライアント PC にデフォルトゲートウェイを追加

(導入後)



3. クライアントPCの設定方法(例)

お客様の社内ネットワークの環境例:

ネットワークアドレス帯: 172.16.0.0/16

→割り当てられるIPアドレスが「172.16.XX.XX」でサブネットマスクが「255.255.0.0」の場合
ちなみに、IPアドレスが「192.168.0.XX」でサブネットマスクが「255.255.255.0」の場合は
「192.168.0.0/24」となります。

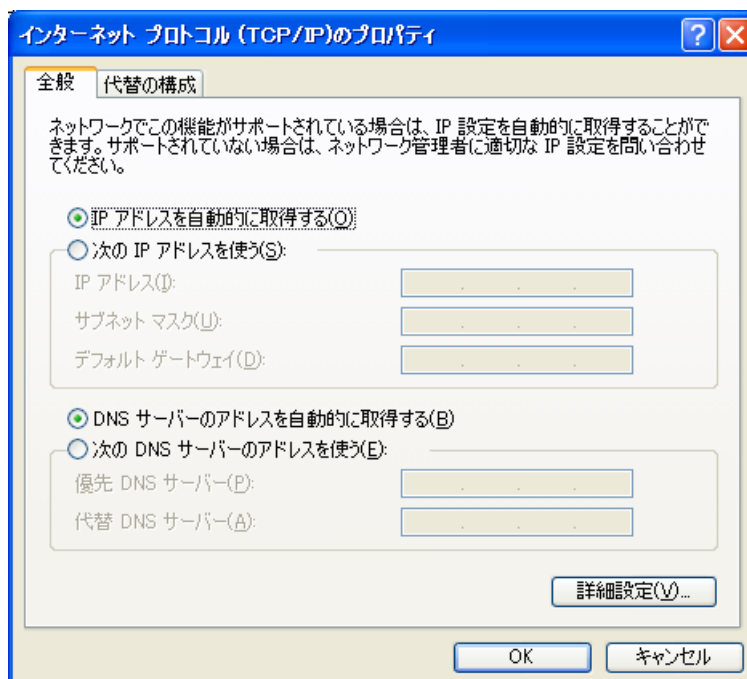
デフォルトゲートウェイ: 172.16.0.1

→社内で通常利用しているゲートウェイ(仮定)

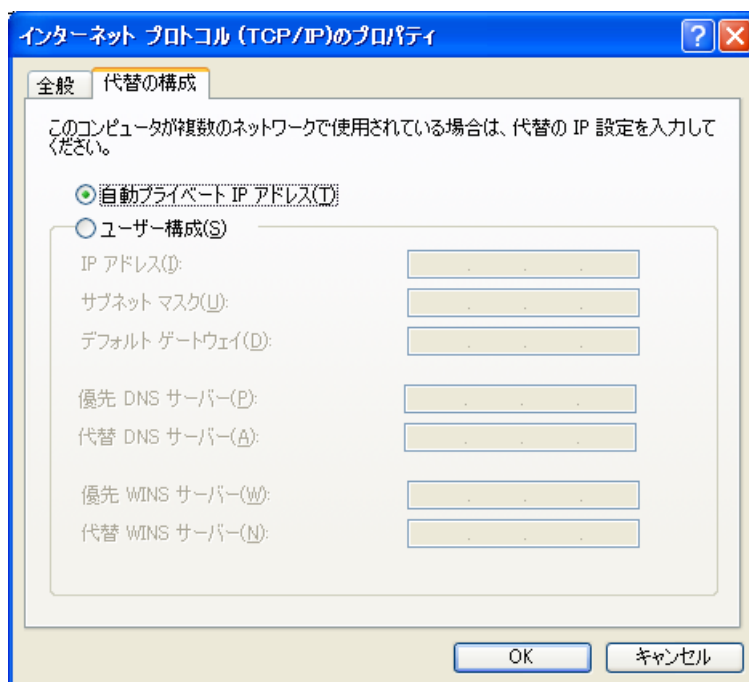
DHCPサーバー: 有効

→IPアドレスを自動取得します。

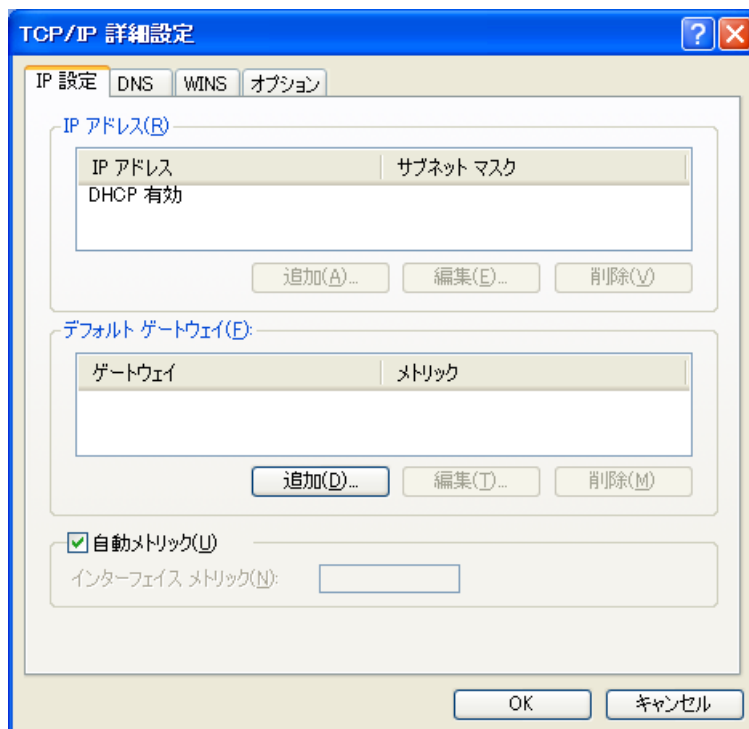
①社内のPCのネットワーク設定(TCP/IPのプロパティ)は下記のようにDHCPによってIPアドレスが自動付与されているものとします。



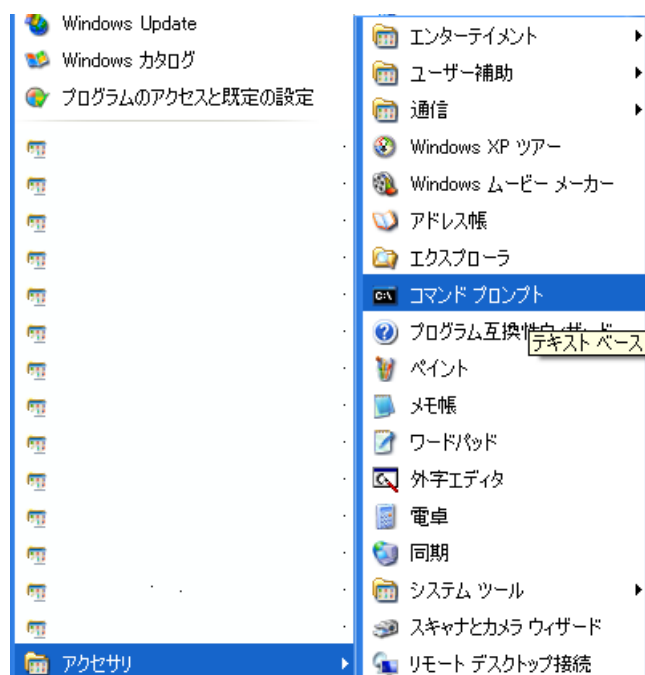
②また、「代替の構成」も同様にDHCPによってIPアドレスが自動付与されているものとします。



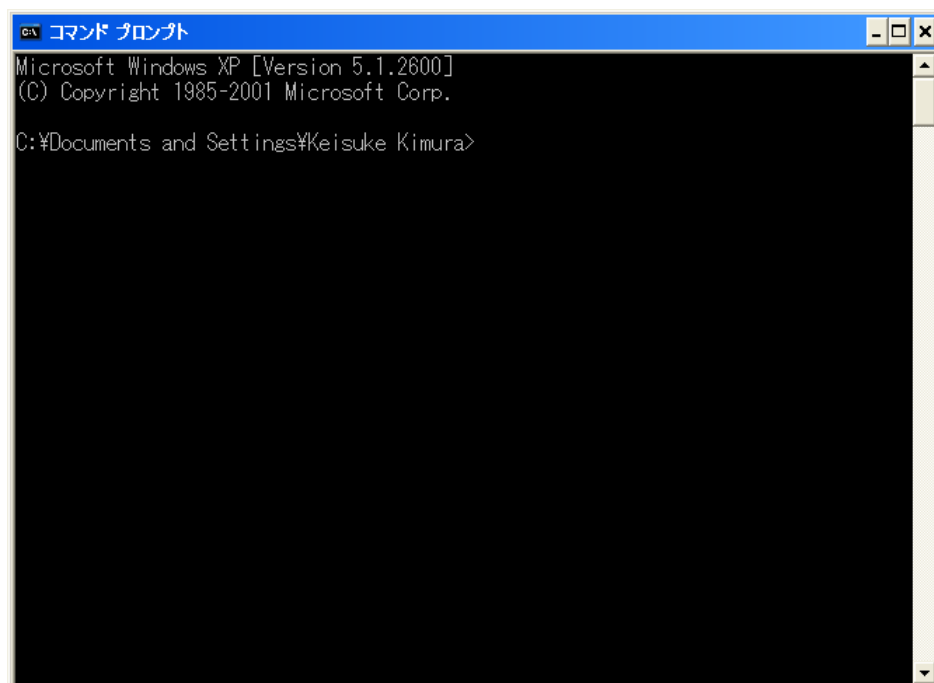
③詳細設定画面も同様に、初期値の状態とします。



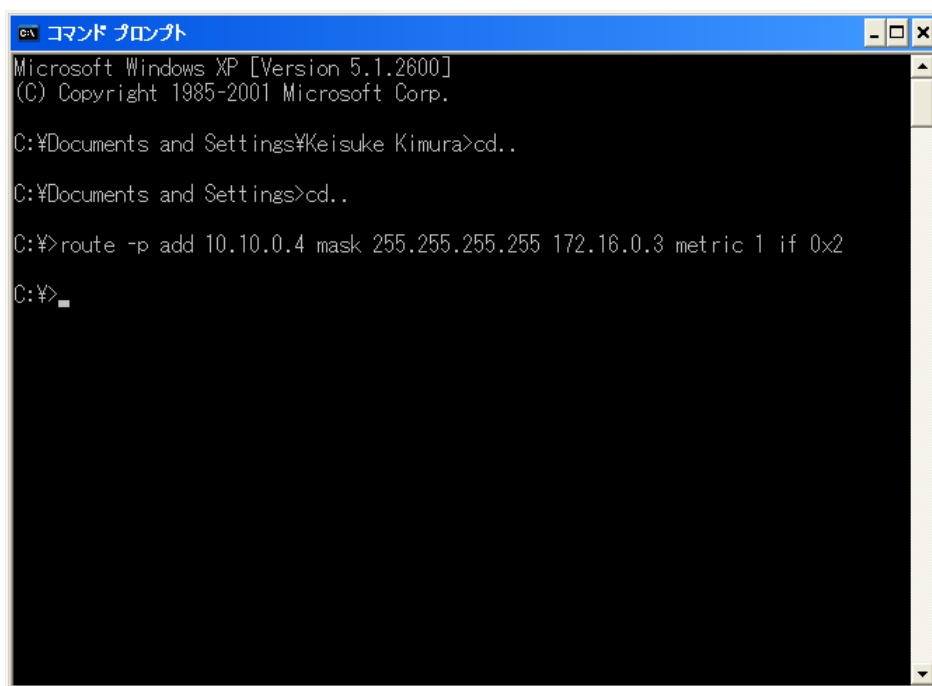
④プログラム→アクセサリよりコマンドプロンプトを起動します。



⑤コマンドプロンプトが起動します。



⑦コマンドプロンプトの入カイメージは以下の通りです。



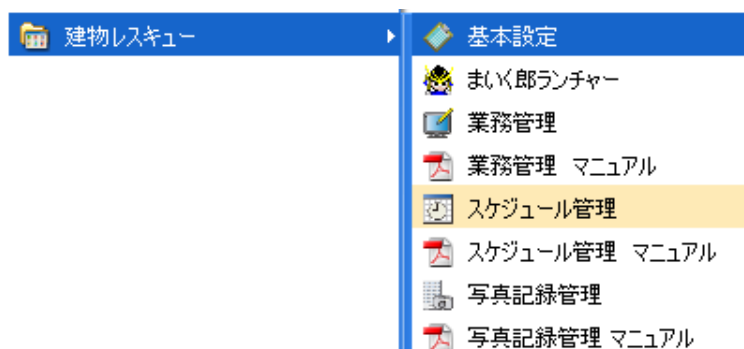
```
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Keisuke Kimura>cd..
C:\Documents and Settings>cd..
C:\>route -p add 10.10.0.4 mask 255.255.255.255 172.16.0.3 metric 1 if 0x2
C:\>_
```

※追加したルート情報をクリアする場合はこのコマンドは以下の通りです。

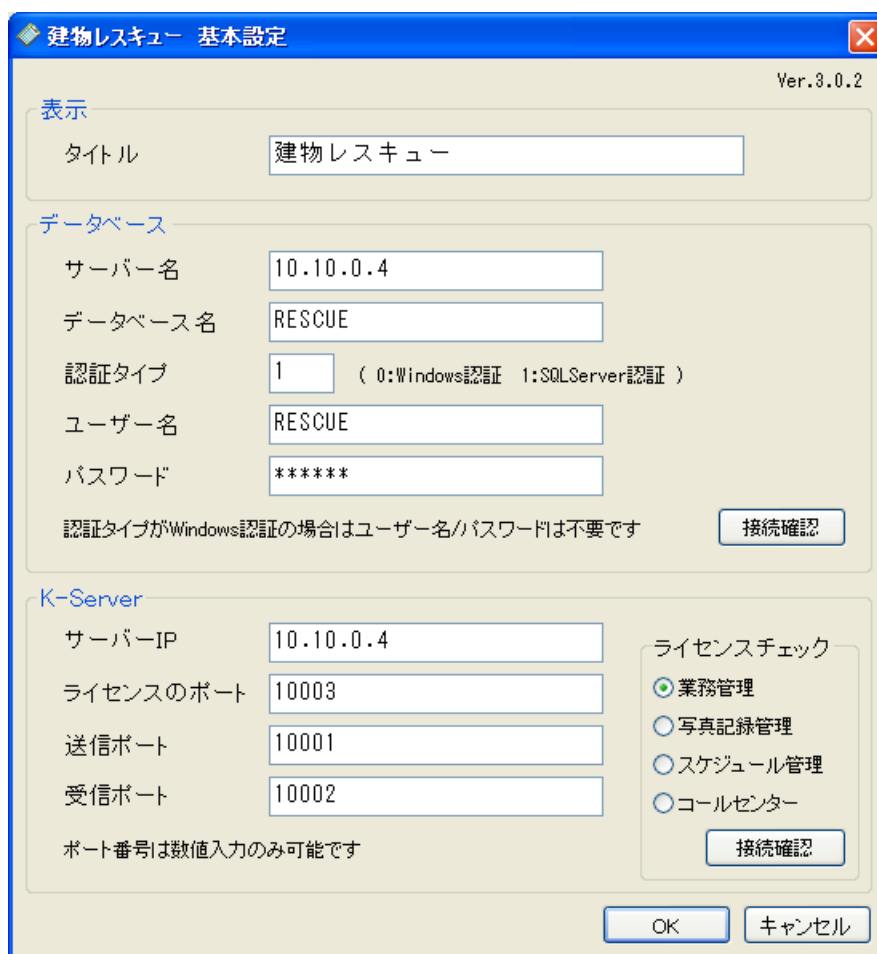
「 route -f 」

⑧プログラムより「建物レスキュー」→「基本設定」をクリックします。



⑨データベース、K-Serverのサーバー名、データベース名等、プロバイダより送付された必要情報を入力します。

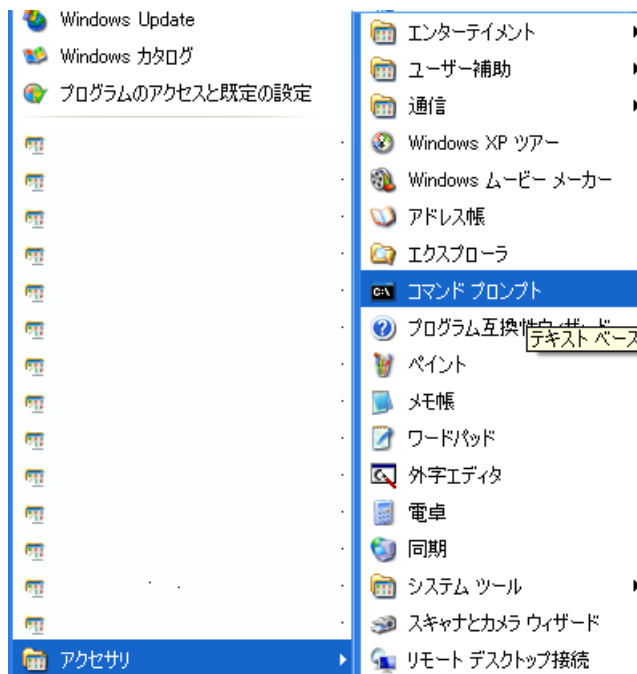
⑩データベース、K-Serverとも「接続確認」ボタンをクリックし、正常に接続されているか、確認します。



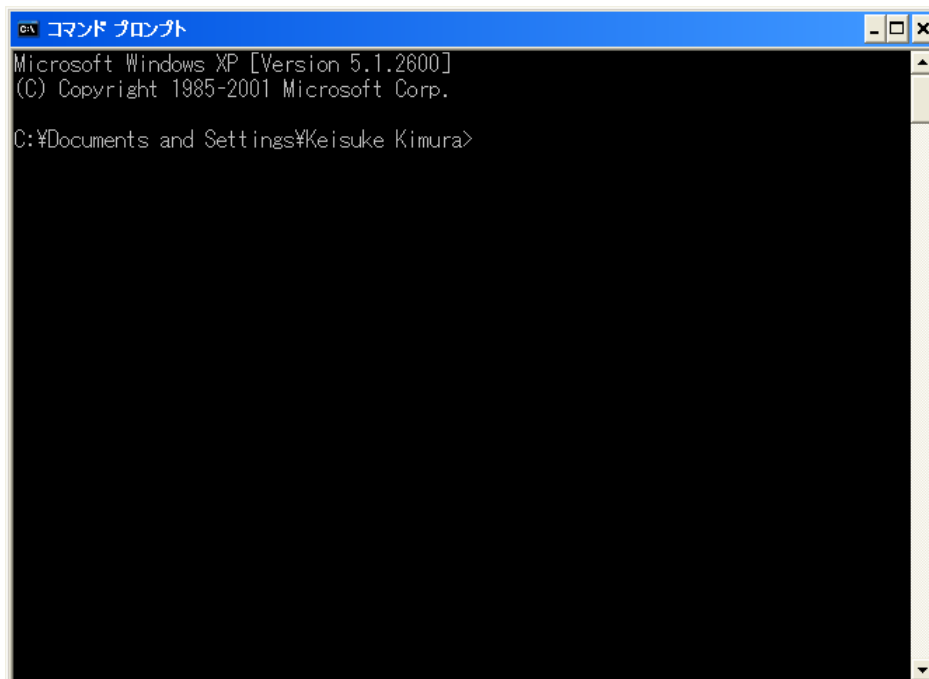
※参考

「接続確認」に失敗した場合、コマンドプロンプトからPINGにより通信確認する必要があります。

①プログラム→アクセサリよりコマンドプロンプトを起動します。



②コマンドプロンプトが起動します。

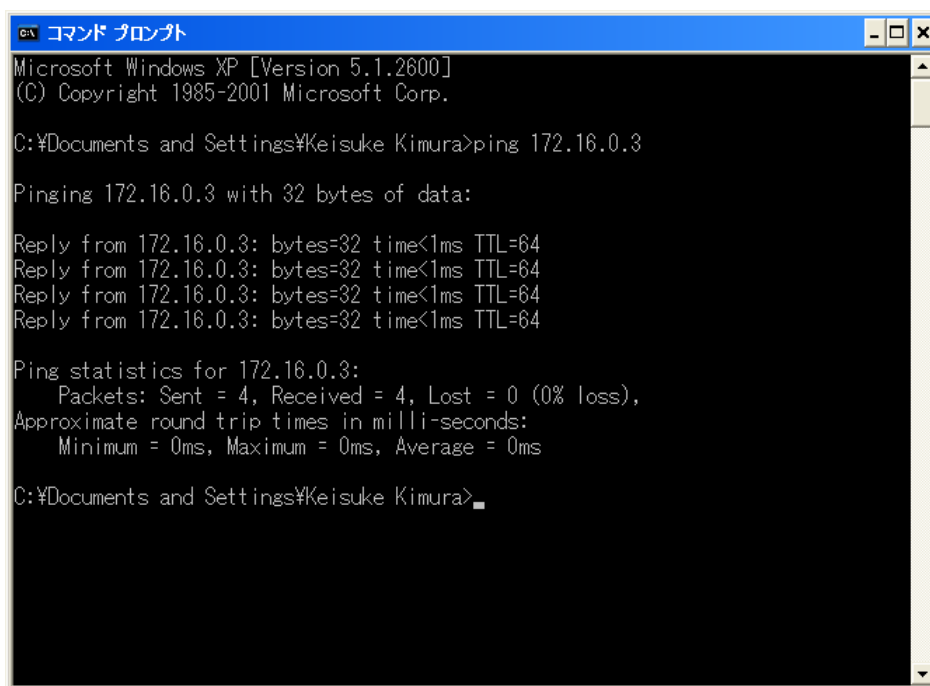


③以下のコマンドを入力し、Enterを押します

「ping 172.16.0.3」 →お客様側のGroupVPN用ルーターのIPアドレスを指定

「ping 172.16.0.1」 →お客様側の通常のデフォルトゲートウェイのIPアドレスを指定

「ping 10.10.0.4」 →ASPサービスサービス提供会社側のサーバーのIPアドレスを指定



```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Keisuke Kimura>ping 172.16.0.3

Pinging 172.16.0.3 with 32 bytes of data:

Reply from 172.16.0.3: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 172.16.0.3: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 172.16.0.3: bytes=32 time<1ms TTL=64
Reply from 172.16.0.3: bytes=32 time<1ms TTL=64

Ping statistics for 172.16.0.3:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

C:\Documents and Settings\Keisuke Kimura>
```

④結果として

「Replay from 172.16.9.3 : bytes=32 time<1ms TTL=64」
のように返答があれば通信が成功していることとなります。

「Request timed out 」
のように返答があれば通信が失敗していることとなります。

これらの通信試験結果をもとに、接続失敗の原因を検討することとなります。